

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071500247		
法人名	有限会社メディカルサービス有田		
事業所名(ユニット名)	グループホーム ゆりのき苑 Aユニット		
所在地	和歌山県有田市千田 403-1		
自己評価作成日	平成26年12月10日	評価結果市町村受理日	平成27年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/">http://www.kai.gokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成27年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者の訴えや主張を大切に感情の表出を抑制せず、笑いあり、喧嘩ありの大家族のような施設です。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設10年を経て安定した迷いのない運営がなされている。住宅地に立地して地域の方々からは介護施設ではなく「大所帯の家族」として受け入れられており、地域に溶け込んだ自然体の運営がなされている。職員は口々に「この雰囲気は和気藹々」と表現し、入居者同士、入居者と職員の交わりの豊かさを感じられる。管理者は職員の指導に熱心であり、職員の外部研修への参加の多さも評判となっている。職員相互の関係も親密でよいチームワークが保たれている。また、食事の充実が特徴のひとつとなっている。全ての職員が献立・調理を担当でき、新鮮な魚介など地元食材を積極的に利用し、洋食も多く取り入れたバラエティのある献立となっていて質・量ともに豊かである。入居者は希望と能力に応じて買い物、調理、片付けなどに参加している。併設する2つのユニットがそれぞれ独自に工夫して運営をしつつ、必要に応じて協力し合うことのできるよい協働の関係が築かれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない ○ 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由」「尊厳」「歓び」のある生活を継続的に支援するという理念を見やすい場所に掲示して、理念を踏まえた支援の提供を忘れないようにしている。	「自由・尊厳・歓び」の理念をリビングに掲出している。ことに、「尊厳」を重視している。職員も入居者と共に生活する家族の一員であるとの気持ちを以て、理念の実現に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩や買い物、地域の行事に参加することで接する機会をもつことで近隣の方に顔を覚えて頂き、子供に送ってもらい帰苑されたこともあり、関係作りができていますと実感している。	町内会に加入し活動にも積極的に参加し班長も経験している。カラオケ大会の運営も担当している。通学の子もたちと日々接しているため、一人で外出した入居者を連れ帰ってくれる。地域からは施設ではなく「大所帯の家庭」とみられ関係が深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に地域に出て行く事で、接し方や認知症高齢者への理解を深めてもらおうとしていることが上記の項目から成果が見られ、貢献できていると実感している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は前年同様、殆ど開催ができていない。	利用者家族や地域の方に対しては常に開かれた運営を心掛け、町内会の班の集いを通じて取り組み状況を理解してもらっており外部評価結果も閲覧できるよう用意されているが、運営推進会議は開催できていない。	災害対策への協力を期待するなど運営推進会議の必要性は理解しているので、運営への協力者・応援者を得ていく場としても、形式に拘らず機会・内容を工夫した開催が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携は、電話、来苑時、訪問時相談や情報交換を行い、協力関係を築いていると思う。	空室情報の提供や入居者の認定調査などのため介護保険課を中心に市町村担当との連携に取り組んでいる。立地市以外にも近隣市町にも情報発信し連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の認識を共有し、身体拘束しないケアに取り組んでいるが、玄関の施錠について、以前は苑への出入りを制限していなかったが、現在は対応しきれない時だけ施錠している。	権利擁護に関する外部研修会に職員が積極的に参加し、他の職員にも報告している。職員は身体拘束はもとより言葉による行動制限も行わないよう気を配っている。玄関は夜間と職員体制が整わないときのみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士が利用者への対応に対し意見交換し抑制し合い、利用者の身体の変化についても関心を持って見ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、ゆりのき苑Aユニットには権利擁護に関する制度を利用している利用者はいませんが、制度があることは理解できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改訂等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を得た上で、署名してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が気軽に意見が言える環境をつくり、また意見を引き出せるような声掛けを行うことで、それらを運営に反映させている。	家族の来所時には常に家族の思いを聞き取るよう心掛けており、家族の面会も頻繁で関係が良好に保たれている。衣類の洗濯の仕方など、具体的な意見・要望にきめ細かく対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案しやすい環境を作っており、反映してもらっている。	申し送りやミーティングで職員が自由に発言できる雰囲気を作られている。また管理者が常に介護現場に居るため相談や意見交換が絶え間なく行われている。3か月に1回職員会議を開催し、時々課題に対応できる機会としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けた支援をしている。 資格取得後は手当を交付している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加は一人ひとりに見合ったものを選び受講し、質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加時、その機会にグループワーク等で関係を持った同業者の方と意見交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で良い印象をもってもらうよう心掛け、入苑後、事前面談を行った職員が、苑の環境や利用者との早い段階で馴染めるよう働きかけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族さんはどのような支援を望んでいるか、本人はどのような支援を望んでいると考えられるのか、本人の生活歴や趣味趣向を聞き出し、どのようなサービスが提供されるのか説明することで信頼関係を築けるよう心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に知り得た情報を元にサービスの提供を行うが、更に重点的な情報収集を行うことで、必要な支援について情報交換を行い対応するように勤めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の持てる力を見極め、役割を持ってもらうことで、共に暮らす関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態を、毎月1回「ゆりのき通信」を発行し報告するとともに、暮らしぶりなや行事等についても写真やコメントをつけて報告し家族との関係が途切れないように留意している。面会時にも日々の状態を報告することで、必要な関係作りを促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院や商店を利用したり、住み慣れた地域に行き雰囲気や思い出を味わい感じてもらう等、一人ひとりの習慣や思いを尊重している。	入居者の半数は以前からの馴染みの理容室を利用していたり、毎日の買い物で出身地域の商店に出かけるなどで関係継続のための支援を行っている。近隣の同一法人事業所の車両も利用して、外出の機会を確保している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について、すべての職員が共有できるようにしている。そして、みんな楽しく過ごす時間づくりをする等、職員が調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者とその家族に、いつでも遊びに来てもらえるようハガキを送り、事業所に来てもらったりしている。他の事業所へ移られた方には、利用者と一緒に遊びに行ったりして、遊びに来てもらう等継続的な付き合いができるよう心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	SOAP方式の記録を活用し、希望や要望を把握するように努めている。また、気付いた事に職員同士で話し合えるよう、観察を促している。	SOAP方式による毎日のアセスメントが定着しておりよく活用されている。発言・発声、表情・表現に注目した観察が行き届き、ここからも意向の把握が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドシートにより把握したり、暮らしの中での会話、家族よりの聞き取り等にて収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状態に対して客観的視点で情報収集を行い、意向について考えることで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録を基に、本人のニーズを介護計画に反映すること、介護計画に見直しが必要でないか職員全員でモニタリングを行っている。	入居者の状況変化に対応するため職員全員でモニタリングを行い、3か月ごとの計画の見直しに繋げている。家族からの意見は来所時に、職員の意見は随時のミーティングから収集して計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送り帳・毎朝の申し送りの実施により、職員間で情報を共有し支援に生かしている。又、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の状況に応じて、通院や外出等必要な支援は柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや市役所の職員と交流を持つことで、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築けている。また、中学生の職業体験の場としても受け入れを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望する医療機関等を優先に、受診できるよう支援している。	希望する医療機関は家族により受診し、必要に応じて送迎の支援を行っている。ホームでは内科、眼科、歯科の開業医と協力関係を持っており、また毎週嘱託医と看護師の訪問により健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には週に一度往診に来てもらっており、診察以外にも相談やアドバイスを頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、医療機関の医師・看護師・相談員等と連絡は密に情報交換し、早期退院に向けて連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、重度化・終末期の対応があることを説明している。本人をとりまく関係者との話し合いは密に行っており方針は共有している。主治医・看護師・薬剤師等多職種に終末期の対応ができるよう体制を取っている。終末期ケアについての内部研修も行っている。	これまでに10名の看取りの実績があり、看取りの場所としての家族の希望が多い。終末期には家族、医師、薬剤師、職員らによる面談を行って看取りの計画を作成し、職員は看取りをホームの役割として肯定的に捉え熱心に関わっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については、連絡体制を掲示、マニュアルを整備し周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、近隣の方にも協力をお願いして、色々な状態を想定した避難訓練を行い、消防署職員より助言を頂いている。	昼間・夜間想定火災訓練を年2回実施し、課題である水害対応訓練は地域全体で行う訓練に参加している。指定避難所以外に、近隣の高台にある神社と交渉して独自の避難所として利用できる体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の自尊心を損なわないように適切な声掛けを行っているか職員同士で意見しあい、自己決定をしやすい言葉掛けをするように努めている。	トイレや入浴の声掛けは、聞こえも考慮し、個別に理解しやすい用語を用いてさりげなく誘うなどの配慮がなされている。自己決定のため「選択できること」が大切であることが理解されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望を自由に表現できるように個別に対応し、会話の中から自己決定ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、それに合わせて対応を心がけている。その日・その時の体調に配慮しながら、本人に希望を尋ねたり、相談しながら過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が望む髪型や化粧が行えるよう支援している。衣服・持ち物に関しては利用者の好みのスタイルを把握し、本人の気持ちにそった支援を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞き、献立を立てている。味付けについて聞くことで、好みの味付けを把握する努力をしている。外食も取り入れている。	半数の入居者が能力に応じて買い物や食事の準備に関わっている。両ユニットがそれぞれ工夫する献立は豊かで、食材や匂い、音も意識して調理している。全職員が分担して調理を担当し、季節の食材を生かし洋食も積極的に取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と1日の摂取量を把握している。個別に主治医より高カロリー補食品を出してもらっている方もいるが、これだけに頼らず、嗜好品や食べやすい物等でいろいろ工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に合わせて声かけ・見守り・介助と支援し、嚥下障害による肺炎の防止等にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、各利用者の排泄リズムと排泄のサインを把握して誘導することにより、排泄の自立に努めている。昼間・夜間のパッドの使い分けにより、快適に生活できるよう支援している。	排泄パターンの把握を重視し、可能な限りトイレに誘導して排泄の自立に努め、おむつ外しにも成功している。入居者個々に対応し、昼間・夜間のパッドの使い分け、ポータブルトイレの利用により、快適に生活できるよう配慮がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の入所者においては主治医や看護師と相談をし支持を仰いでいる。薬の調節と共に水分摂取、食事の工夫、腹部マッサージ、運動等促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中を中心に入浴しているが、曜日、回数 の制限は設けず利用者の希望にそって入浴できるよう支援している。	日中を中心に入浴しているが、曜日、時間、回数 の制限は設けず、希望に沿った入浴が できている。浴室は家庭用個浴だが2名での 介助により全ての入居者が浴槽を利用でき ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規則正しい生活リズムが取れるよう支援しているが、利用者の希望やその日の体調、習慣等を配慮して支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	援助確認表・服薬管理ノート・申し送りノートにより把握し支援している。疑問があれば、医師・看護師・薬剤師にはいつでも連絡が取れる態勢であり、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味や特技等を活かして、生活上での役割が楽しみとなるよう「ありがとう」等の声掛けを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望にそって外出する場合や、日常の買い物にも一緒に行っている。また、外食や地域行事などにも積極的に参加し、外出の機会を設けている。	趣味の活動や地域の行事などには平均して2か月に1回程度は参加できている。散歩や喫茶、食事のための買い物など、行事以外の日常的な外出を気軽に行っている。車いす対応の車両も活用している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を自らで管理したいと訴える利用者がいないが、いつでも使えるように預かり金は管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい、手紙を出したいと訴えられる方はいないが、職員から電話をかけないか働きかけを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	複数の利用者が共用するホールでは、各々が独自の空間づくりをして干渉しあっているが、その中でなるべく居心地がいいと思える空間づくりを心掛けている。	季節の設えなどは過剰な演出にならず、自然に整えられている。食卓の座席も関係性を考慮して決定し、居心地の良さに気を配っている。職員宛の通知などはステーション内壁に掲出し、家庭らしさを保つよう配慮されている。入居者はリビングで多くを過ごしており、居心地の良さが伺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには食卓・ソファを置いてあり、あまり広くはないが気の合った入所者同士が共有空間において、自由に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた物や、馴染みの物を使用すること、ベッドやタンス、テレビなど使いやすい場所に配置することで、居心地よく過ごせるよう配慮している。	居室は清掃が行き届き清潔に保たれ、私物も適度に持ち込まれている。歩行時の手掛かりとして敢えてブラウン管テレビを残すなど、入居者の特性に配慮した環境作りがなされている。洋室であるが必要に応じて畳や炬燵の利用にも応じている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態を把握し、残存機能の活用を考慮し、自助具の使用と必要な支援を提供することにより、自立した生活を営めるよう支援している。		